

【第3分科会】 ④
佐藤順先生（千葉・銚子市立銚子高等学校）

木彫浮き彫り制作～『鳥獣人物戯画』より～

- Q 1** 楯ベニヤに描くときのポイントを教えてください。
- A** 市販の墨汁を使いますが、あまり薄めなければにじむこともないようです。生徒には端材で試し描きをして濃さを見るように指導しています。
- Q 2** 木彫の技術的な指導の注意点や工夫は何ですか？レリーフ用の木材は何ですか？
- A** 木彫の技術的な指導は、1年次に切り出しと平刀を中心に、持ち方、表裏、運刀についてパワーポイントで画像を見せながら指導しています。ごく一般的な内容で特別なものはありません。
レリーフ用の木材は、シナ材で10mm厚のものを 사용합니다。
- Q 3** 形、ポーズのグリッド線は、生徒は描き込めますか？ポイントは？
- A** グリッド線の把握のさせ方は、以前には青森ねぶたの骨組みの画像を見せたこともありましたが、第1段階で、人物の顔をイラスト等で描く際に、正中線と両目を結ぶ線が直交する十字を基準にする話をします。人物の顔を真正面から見たら十字ですが、斜め上から見たら…を考えさせます。第2段階で、カエルの正面、側面の全身像イラストを例に板書し、適度に縦横の線を入れます。これが、絵巻中のポーズを取ったらどう見えるかという演習課題に入ります。ポイントは細かさではなく、立体感や量感を意識してグリッド線が書けているかを見ています。
- Q 4** 鑑賞、制作それぞれの授業時数は？何学期制ですか？3学期制なら学期ごとの評価はどうしますか？
- A** 鑑賞の時間数は、絵巻レプリカやDVDの視聴、レポート作成、制作途中の相互鑑賞会を含めると6時間程度です。制作の時間数は22～24時間程度です。2期制です。
- Q 5** 「鑑賞」としての評価の観点は何ですか？
- A** 鳥獣人物戯画に見られる表現形式や表現内容に理解を深め、その良さや美しさを味わっているかを、鑑賞の様子、レポートの内容、制作への取り組みを含めて観ています。DVDの内容は歴史や民俗学にも関わる内容なので、美術の枠にとどまらず生徒が知的関心を寄せてくれることを望んでいます。なかなか難しい面もあります。
- Q 6** グループ作品の持ち帰りはどうするのですか？また、評価はどうするのですか？グループの中で進度の遅い生徒への対応、評価は？

A 作品の持ち帰りは、生徒個々が担当したレリーフを返すこととなります。全体の写真を撮って配ってもよいかと思えます。作品は個別のシナベニヤ板に取り付け、絵巻から一部分を切り取った状態でも成立するようにできると思えます。(実はまだ返却できておりません・・・)

評価は、個別作品としての評価が中心となりますが、グループ制作でのリーダーシップや協調性、コミュニケーションの様子など評価できるものは加味しています。

進度の違いは、授業前にグループの作品を並べて全体の見通しや進度に気づかせたり、なるべくならグループ内で考えさせたいと思えますが、状況によっては教師が個々にてこ入れをすることもありました。

Q 7 グループ編成は教師が決めるのですか？

A グループ編成は、クラス替え直後ということもあり、1年次の個々の状況を見て教師が決めました。生徒に決めさせると偏る心配もありました。

Q 8 A 3 のトレースは自作ですか？入手可能ですか？

A A 3 版のコピー資料のことでしょうか。制作の元となる資料は絵巻レプリカを拡大コピーして授業に使っています。